

改善方策実施計画書

担当部局：文学研究科

責任者：文学研究科委員長

幹事：大学院事務局

2010年7月16日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	大学院生たちから要望の強い図書が大学院研究室に常備されていないという不満があることは大きな問題である。					
改善方策	10-20-1 大学院生の研究に必要な図書を大学院研究室に常備する。					
計画	前期		中期		後期	
	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
2010 年度実施計画			達成時期	2010 年度取り組み結果		
各専攻は、大学院生の研究に必要な図書を大学院研究室に常備できるよう検討する。			2011. 3. 31	A 完全に達成	B 達成半ば	○ C 未達成
				(B または C の理由) 未着手である。		
2011 年度実施計画			達成時期	2011 年度取り組み結果		
図書館ならびに他研究科などの関係部署と連携・調整を図る。			2012. 3. 31	A 完全に達成	B 達成半ば	○ C 未達成
				(B または C の理由) 図書館ならびに他研究科などの関係部署との連携・調整が十分には整わず、未着手である。		
2012 年度実施計画			達成時期	2012 年度取り組み結果		
ひきつづき図書館ならびに他研究科などの関係部署と連携・調整を図りながら、研究科委員長会議に提案し決定する。			2013. 3. 31	A 完全に達成	B 達成半ば	○ C 未達成
				(B または C の理由) 未着手。		
2013 年度実施計画			達成時期	2013 年度取り組み結果		
ひきつづき図書館の運営委員会において問題提起するとともに、研究科委員長会議に提案し、検討委員会の設置を求めるなどして、他研究科と連携を図りながら改善の方策を探る。				A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
				(B または C の理由)		
2014 年度実施計画			達成時期	2014 年度取り組み結果		
				A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
				(B または C の理由)		
2015 年度実施計画			達成時期	2015 年度取り組み結果		
				A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
				(B または C の理由)		

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	大学院生たちから要望の強い図書が大学院研究室に常備されていないという不満があることは大きな問題である。
改善方策	10-20-1 大学院生の研究に必要な図書を大学院研究室に常備する。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

文学研究科の一専攻において、自由に裁量可能な問題ではない。図書の管理・運営という業務とも関連することであり、大学院・学部・図書館など、大学（院）のトップが根本的な運営上の指針を示すことが重要と考えられる。

中国学専攻の場合、工具書をはじめとして基本的な叢書等他専攻より研究上必要な図書は圧倒的に多い。現状では、院生研究室に常備しうる図書は制限されているし、図書館にある図書は重複して購入できないシステムになっていて、大学院生の学習・研究に大きな障害となっている。図書館はこの問題にもっと柔軟に対応し、院生の便宜をはかるべきである。

英文学専攻の場合、大学院の図書予算では学生の希望図書を購入するようにしているが、図書管理の問題もあり、大学院研究室には分置できない状況にある。予算も削減傾向が進んでいる。基本文献・辞書・事典類のレファレンス類の充実した設置を望みたい。

書道学専攻の場合も中国学専攻・英文学専攻同様、基本文献不足に悩んでいる。

教育学専攻は図書館、学科資料室の活用で不都合を感じていない。

所見	研究科として、図書館に積極的に働きかける必要がある。
----	----------------------------

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

中国学専攻では、図書館の規定により必要な図書を院生研究室に配架できない。また専攻の予算で購入した図書も院生研究室に配架できない。図書館は院生の研究に便宜を図るべきである。

英文学専攻の場合、昨年同様、大学院研究室に基本文献・辞書・事典類のレファレンス類の充実した設置を望みたい。

書道学専攻では、やはり院生室に辞書類を含む基本文献が不足している。

所見	院生研究室に図書を配架できないという問題点や院生室に辞書類が不足しているという問題点について、具体的な解決策を検討・提案して下さい。
----	--

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

昨年度と変わっていない。

所見	今後も引き続き院生の学習環境の整備に努めて下さい。
----	---------------------------

改善方策実施計画書

担当部局：文学研究科

責任者：文学研究科委員長

幹事：大学院事務室

2010年7月16日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	教員の研究室が2号館で、大学院生研究室は1号館ということは、論文作成指導を初めとする大学院教育のマイナス要因である。					
改善方策	10-20-2 大学院生研究室を2号館・3号館の指導教員と同じフロアに移す。					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
2010年度実施計画			達成時期	2010年度取り組み結果		
大学院生研究室を2号館または3号館の指導教員と同じフロアに移すことが可能かどうか、関係部署と協議を開始する。			2011. 3. 31	A 完全に達成	B 達成半ば	○ C 未達成
				(B または C の理由) 未着手である。		
2011年度実施計画			達成時期	2011年度取り組み結果		
ひきつづき大学院生研究室を2号館または3号館の指導教員と同じフロアに移すことが可能かどうか、関係部署と協議する。			2012. 3. 31	A 完全に達成	B 達成半ば	○ C 未達成
				(B または C の理由) 関係部署のと協議が整わず、未着手である。		
2012年度実施計画			達成時期	2012年度取り組み結果		
ひきつづき関係部署と協議した上で、研究科委員長会議に提案しその決定に従う。			2013. 3. 31	A 完全に達成	B 達成半ば	○ C 未達成
				(B または C の理由) 未着手。		
2013年度実施計画			達成時期	2013年度取り組み結果		
改善方策および実施計画を撤退する。			2014. 3. 31	A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
				(B または C の理由)		
2014年度実施計画			達成時期	2014年度取り組み結果		
				A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
				(B または C の理由)		
2015年度実施計画			達成時期	2015年度取り組み結果		
				A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
				(B または C の理由)		

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	教員の研究室が 2 号館で、大学院生研究室は 1 号館ということは、論文作成指導を初めとする大学院教育のマイナス要因である。
改善方策	10-20-2 大学院生研究室を 2 号館・3 号館の指導教員と同じフロアに移す。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

協議する場がない。

所見	研究科長会議などに提案することはできないか。計画では、関係部署と協議するとしているので、実施することが必要です。
----	--

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

大学全体の組織と管理の問題であり、一研究科では解決できない実情にある。

所見	関係部署との意見調整を図りながら、研究科長会議などで具体的な解決策について検討・提案して下さい。
----	--

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

大学全体の組織と管理の問題であり、一研究科では解決できない実情にあるので、改善方策および実施計画を撤退する。

所見	大学全体の問題であり、一研究科では解決することができない面もありますが、研究科長会議等での提案を検討して下さい。
----	--